

7-1. A 生活習慣病重症化予防対策事業《生活指導事業》 1/2

内容

糖尿病性腎症で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い者に対して、生活指導を行い人工透析への移行を防止する。

目標値

アウトプット（事業実施量）		アウトカム（成果）	
評価指標	目標値	評価指標	目標値
平成29年度 6か月後生活指導修了者数	150人	①指導実施者の翌年の検査値改善率	70%
		②指導実施者の人工透析に至った数	0人

実績

※埼玉県、埼玉県国民健康保険団体連合会の実施する生活習慣病重症化予防対策事業に参加

実施年度	協力医療機関数	候補者数	生活指導対象者	同意者数	初回面接実施数	6か月後修了者数	①検査値*の改善率	②人工透析人数
27	20	173	143	64	52	48	46.0%	0
28	40	370	370	69	66	60	実施中	—
29	50	727	259	76	71	実施中	実施中	—

\*：HbA1c・eGFR・クレアチニン・尿蛋白・血圧・BMI・腹囲・中性脂肪・LDL・HDLの翌年度の検査値

7-1. A 生活習慣病重症化予防対策事業《治療中断者・健診異常値放置者受診勧奨事業》 1/2

内容

糖尿病治療の中断者や、健診結果が要治療域であるにもかかわらず未受診の者を医療に結びつけることで、糖尿病重症化を防ぐ。

目標値

事業	アウトプット（事業実施量）	アウトカム（成果）	
治療中断者受診勧奨事業	対象者への通知者数	250通	勧奨対象者の医療機関受診率
健診異常値放置者受診勧奨事業		1,100通	

実績

年度	事業	実施内容	実績	勧奨対象者受診率*2
27	治療中断者受診勧奨事業	対象者に対して受診勧奨通知書の送付、さらに再度電話等による受診勧奨を実施	通知送付数 250通 (電話・訪問勧奨*1 216件)	16.0%
	健診異常値放置者受診勧奨事業		通知送付数 1,092通 (電話・訪問勧奨*1 730件)	22.2%
28	治療中断者受診勧奨事業		通知送付数 201通 (電話勧奨 39件)	15.6%
	健診異常値放置者受診勧奨事業		通知送付数 896通 (電話勧奨 295件)	18.2%
29	治療中断者受診勧奨事業	通知送付数 169通	実施中	
	健診異常値放置者受診勧奨事業	通知送付数 808通	実施中	

\*1：平成27年度は電話と訪問での勧奨を実施

\*2：通知対象者から自発的な受診者を除いた人を母数とし、その母数を受診者で除算した値

7-1. A 生活習慣病重症化予防対策事業《生活指導事業》 2/2

達成状況

年度	達成状況*	要因・考察
27	①65.7% ②100%	○生活指導参加者の生活習慣改善の効果はあったが、検査値改善率目標値の達成はできていない。 ・高齢者が多く、目標値の設定として70%の改善は難しい。 ・後期高齢者保険制度への移行者が多くいるため、翌年度の健診検査値や医療費の確認が困難である。 ・翌年度、健診を受診しない対象者の検査値の確認ができない。また、生活習慣改善の経過については継続参加者が少ないことから、経年的な変化の確認が難しい。
28	検証中	○生活指導実施者数は、目標値である150人を達成できない見込みである。 ・対象医療機関数を拡大してきたが、県内市町での共同事業のため、対象者が多いさいたま市では選定スケジュール等が短かく、参加者が増えなかった。 ・協力医療機関への丁寧な説明や密な連携が必要だった。
29	実施中	・生活指導参加者は高齢者が多く、指導を受けることが面倒であるとの理由での辞退者がいた。

\*：①検査値の改善率（実績）÷指導実施者の翌年の検査値改善率（目標値）

②人工透析人数（実績）÷指導実施者の人工透析に至った数（目標値）

7-1. A 生活習慣病重症化予防対策事業《治療中断者・健診異常値放置者受診勧奨事業》 2/2

達成状況

年度	事業	達成状況*	要因・考察
27	治療中断者受診勧奨事業	80.0%	○治療中断者・健診異常値放置者ともに、勧奨対象者受診率の目標値の達成はできていない。 ・電話での受診勧奨については、電話番号不明が半数近くあった。 ・電話番号は委託実施者が、タウンページなどで公表されている電話番号で勧奨している状況である。 ・市で保有している電話番号については、名簿の確認等でスケジュールに時間制限があり、使えていない。 ・電話ができた人のうち、受診を了承した人は約30%であったことから、電話勧奨ができれば、受診率が上げられると考えられる。
	健診異常値放置者受診勧奨事業	88.8%	
28	治療中断者受診勧奨事業	78.0%	・未受診の理由は、「自己管理が出来ている」が多く、次いで「時間がない・忙しい」だった。「症状がないから必要がない」という回答もあり、糖尿病に対する認識不足も感じられる。
	健診異常値放置者受診勧奨事業	72.8%	
29	治療中断者受診勧奨事業	実施中	
	健診異常値放置者受診勧奨事業	実施中	

\*：勧奨対象者受診率（実績）÷勧奨対象者の医療機関受診率（目標値）

## 7-2. B 特定健診受診率向上対策事業《受診勧奨》 1/2

### 内容

年度当初に受診券を送付した者のうち、未受診者を対象として、電話と文書による受診勧奨を行う。電話勧奨は業務委託で実施。

### 目標値

アウトプット（事業実施量）			アウトカム（成果）	
評価指標	目標値	評価指標	目標値	
電話勧奨	対象者へのコンタクト率	70%	勧奨対象者の受診率	40%
文書勧奨	対象者への送付件数	40,000件		

### 実績

年度		実施内容	対象者へのコンタクト率	勧奨者の受診率
27	電話勧奨	秋期3か月間、冬期1か月間の2回実施	66.8%	21.1%
28		夏期2か月間、冬期1.5か月間の2回実施	58.9%	19.2%*
29		夏期2か月間、冬期1か月間の2回実施（予定）	実施中	実施中

年度		実施内容	対象者への送付件数	勧奨者の受診率
27	文書勧奨	電話勧奨対象者と異なる対象者に対して文書による受診勧奨を実施	60,273件	10.9%
28		電話勧奨対象者へ、ハガキによる電話勧奨の案内と勧奨を実施（電話・文書で同対象者へ勧奨）	70,871件	20.7%*
29			約70,000件（予定）	実施中

\*：平成28年度は電話と文書で同対象者へ勧奨したため、電話勧奨後に受診した率は文書勧奨後に受診した率に含まれる

## 7-2. B 特定健診受診率向上対策事業《キャンペーン》 1/2

### 内容

早期に特定健診・国保人間ドックを受診した者に対し、抽選で賞品をプレゼントする。賞品は協賛企業により無償で提供を受けている。

### 目標値

アウトプット（事業実施量）		アウトカム（成果）	
評価指標	目標値	評価指標	目標値
チラシ配布箇所	500か所	①キャンペーン期間中の初回受診率	25%
		②40代の受診率	20%

### 実績

平成29年度は暫定値

年度	実施内容	チラシ配布箇所	①期間中の初回受診率	②40代の受診率
27	・4月～7月末までの早期受診者への抽選	488	18.5%	17.8%
28	・4月～8月末までの早期受診者への抽選（期間を1か月延長） ・早期受診者で抽選に漏れた者のうち、平成23年度以降特定健診を受診するのが初めての受診者全員に賞品をプレゼント	486	17.6%	17.1%
29	・4月～8月末までの早期受診者への抽選 ・早期受診者で平成24年度以降特定健診を受診するのが初めての受診者への抽選	486	16.4%	実施中

①：期間中の初回受診率とは、キャンペーン期間に受診した人のうち、初めて受診した人の割合。健診受診後に国保を脱退した人も含む  
②：40代の受診率とは、特定健診対象者数のうち、40代の人の割合

## 7-2. B 特定健診受診率向上対策事業《受診勧奨》 2/2

### 達成状況

年度	勧奨種別	達成状況*	要因・考察
27	電話勧奨	52.8%	○電話勧奨・文書勧奨とも勧奨対象者受診率の目標値の達成はできていない。 ・電話番号が変更されている、留守番電話等で勧奨できない者等、コンタクトが取れないケースが多い。 ・電話勧奨対象者を抽出する際に、過去の勧奨において、電話番号が変更されて繋がらなかった者を対象から外していなかったことで、コンタクトが取れなかった割合が上がってしまった。
	文書勧奨	27.3%	
28	電話・文書	51.8%	・電話勧奨で、受診しない理由は、通院中や多忙が多く、勧奨が難しかった。
29	電話・文書	実施中	・勧奨対象者の受診率は、電話勧奨が平成27年度21.1%、文書勧奨は電話勧奨と合わせ平成28年度20.7%であり、目標設定が高すぎたのではないかと考える。

\*：勧奨後に受診した率（実績）÷勧奨対象者の受診率（目標値）

## 7-2. B 特定健診受診率向上対策事業《キャンペーン》 2/2

### 達成状況

年度	種別	達成状況*	要因・考察
27	初回受診率	74.0%	○キャンペーン期間中の初回受診率は、目標値を達成できていない。 ・平成28年度に初めての受診者へのプレゼントキャンペーンを開始したが、初回受診率は減少している。 ・初回受診者は、40歳になった人、転入や他の保険からの新規加入者、今まで受診したことがない人であるが、初回受診率の減少は、40歳の加入者の減少、他の保険からの加入者の減少によるものが要因の一つと考える。
	40代受診率	89.0%	
28	初回受診率	70.4%	○40代の受診率は、80%～90%程度の目標値達成である。 ・政令市や埼玉県においても、40～44歳男性の受診率が最も低い傾向にある中で、年度での増減はあるものの向上してきている。 ・また、40～44歳女性の受診率は、平成27年度に21.2%と、20%を超えたことから、若い年代への啓発の効果が見受けられる。
	40代受診率	85.5%	
29	初回受診率	65.6%	○平成26年度から早期受診キャンペーンを開始したことで、健診受診率が上昇したが、平成28年度は横ばいとなっている。 ・平成27年度末時点の40歳以上の被保険者数が年度末時点で205,775人、平成28年度末は195,921人と、約10,000人減少しており、健診受診後の国保からの脱退が受診率に反映されないことも、受診率向上を妨げる要因の一つと考える。
	40代受診率	実施中	

\*：①キャンペーン期間中の初回受診率（実績）÷キャンペーン期間中の初回受診率（目標値）  
②40代の受診率（実績）÷40代の受診率（目標値）

## 7-3. C ジェネリック医薬品差額通知事業

### 目標値

アウトプット（事業実施量）		アウトカム（成果）	
平成29年度 対象者への通知件数	45,000通	ジェネリック医薬品の数量シェア（使用割合）	70%

### 実績

年度	実施内容	実績	使用率
27	後発医薬品に代替可能な先発医薬品を利用している被保険者に利用勧奨を実施	通知送付数 31,138通	58.2%
28		通知送付数 45,658通	65.4%
29		通知送付数 -	68.5%*1

### 達成状況

年度	達成状況*2	要因・考察
27	82.3%	○ジェネリック医薬品の数量シェアは、ほぼ目標値を達成しているが、平成29年度に、国は2020年度までの数量シェア80%と目標値を定めている。
28	92.4%	・数量シェアは0歳から14歳で低い傾向にある。市独自で行っている子育て支援医療費助成制度によって中学校卒業まで（0歳～14歳）の世代は医療費が無料であるので、ジェネリック医薬品を使う誘因がない。
29	97.9%	

\*1：平成29年10月診療分のデータ

\*2：ジェネリック医薬品の使用率（実績） ÷ ジェネリック医薬品の使用率（目標値）

## 7-4. E・F その他の保健事業

### 実施内容

### 課題

#### E 生活習慣病 予防普及啓発 事業

- ・区イベントにて、生活習慣病についての医師講義とストレッチ体操等を実施した。参加者の8割程度が高齢者だった。
- ・世界腎臓デーで、呼気中一酸化炭素濃度測定器体験による禁煙啓発や生活習慣病予防パンフレット配布による啓発を実施している。
- ・与野医師会や保健センターとの協働で事業を実施している。
- ・禁煙指導に利用するため、呼気中一酸化炭素濃度測定器を各区へ適宜配置し、活用している。
- ・区ごとに運動教室などのポピュレーション事業を実施している。

イベントの参加者は高齢者が多いため、若い世代への生活習慣病予防普及啓発が必要。

#### F 特定保健指導 実施率向上 対策事業

- ・健診結果説明時、医師より特定保健指導の説明を実施している。
- ・動機付け支援は、健診説明会にて実施医療機関に協力を依頼。
- ・積極的支援は、健診実施医療機関から対象者へ参加を促すよう協力を依頼している。また、区毎の取組として、医療機関への協力の依頼や個人の健診経年データなどで受講勧奨を行っている。
- ・未実施者に文書・電話による勧奨を行うとともに、未実施理由を確認している。
- ・支援方法として、文書、電話、メール、面接に加え、各区保健センターの教室参加や、市内スポーツ施設の利用と運動指導を実施している。

特定保健指導実施率は全国、埼玉県、政令市を上回る。実施率向上に向けて様々な対策を実施しているが、大きな増加につながらない。